

令和3年度自己評価シート(年度末評価)

校番	107	学校名	西条特別支援学校	校長氏名	吉迫 基全	全日制	本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-----	----

1 中期(3年間)経営目標及び短期(本年度)経営目標

【中期(3年間)経営目標】 (1) 個に応じた主体的な学びを促す教育課程の編成に取り組む学校	評価			総合評価
	1年目	2年目	3年目	
	A			
【短期(本年度)経営目標】 ①進路に関する情報を蓄積、整理し、卒業後の生活がイメージできるように児童生徒、保護者に発信する。				
【評価指標】 ①学校評価アンケート等による肯定的な評価の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	60%	70%	A
【短期(本年度)経営目標】 ②本校の多様な教育課程についての理解を深める。				
【評価指標】 ②教職員アンケート等による肯定的な評価の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	80%	93%	A
【短期(本年度)経営目標】 ③「知りたい」「伝えたい」「やってみたい」という児童生徒の思いを引き出す授業づくりを推進する。				
【評価指標】 ③教職員アンケート等による肯定的な評価の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	60%	94%	A

【中期(3年間)経営目標】 (2) 児童生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる学校	評価			総合評価
	1年目	2年目	3年目	
	A			
【短期(本年度)経営目標】 ④安全に配慮した児童生徒の学習の場づくりに努める				
【評価指標】 ④学校評価アンケート等による肯定的な評価の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	80%	98%	A
【短期(本年度)経営目標】 ⑤児童生徒の実態に応じた挨拶の指導を充実させる。				
【評価指標】 ⑤教職員・保護者・外部学校関係者(隣接施設、学校訓練士、学校評議員など)アンケートによる肯定的な評価の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	50%	96%	A

【中期(3年間)経営目標】 (3) 社会の変化に柔軟に対応し、地域と協働しながら組織的にチャレンジし続ける学校	評価			総合評価
	1年目	2年目	3年目	
	A			
【短期(本年度)経営目標】 ⑥地域と積極的に交流・協働を図ることで地域からの信頼を高める。				
【評価指標】 ⑥地域の方へのアンケート等による肯定的な評価の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	60%	93%	A
【短期(本年度)経営目標】 ⑦地域を巻き込んだ協働学習を推進する。				
【評価指標】 ⑦教職員(地域)アンケート等による肯定的な評価	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	60%	86%	A

【短期(本年度)経営目標】				
⑧職員一人一人が「学校の働き方改革」の目的を意識し、質の高い教育活動を実施できる学校				
【評価指標】 ⑧個々の目標の達成度	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	80%	71%	B
⑨会議・研修等の日程調整を「働き方改革」の視点を持って行う。				
【評価指標】 ⑨施錠時刻の徹底	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
	—	80%	84%	A

※ 学校経営計画に記載している中期(3年間)経営目標及び短期(本年度)経営目標の数に応じて表を追加・削除する。

2 年度末評価のまとめ

	中期(3年間)経営目標	成果	<p>(1)多様な教育課程の理解が進み、児童生徒の実態に応じた「知りたい」「伝えたい」「やってみたい」を引き出す授業づくりが組織的に推進されてきている。</p> <p>(2)児童生徒が安全に学習できる環境づくりの観点を明確にし、定期的に点検することで、組織的に安全な環境づくりに取り組む体制が構築できている。また、定期的なあいさつ運動によりあいさつが定着してきたことで児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに結び付いてきている。</p> <p>(3)社会の変化に柔軟に対応し、SDGsの取組やICT機器の活用により、工夫をしながら地域との協働を進めることができた。</p>
		課題	<p>(1)多様な教育課程を整理しながら、それぞれの教育課程の課題を明確にし、PDCAサイクルによる授業改善を行うことで、よりよい教育課程の編成に繋げていく必要がある。</p> <p>(2)引き続き安全・安心な環境づくりを行うとともに、児童生徒自らが、安全・安心な学校生活について考え行動できる教育内容の充実を図る必要がある。</p> <p>(3)地域資源を最大限に活用し、取組の具体を情報発信することで、地域に本校の取組を広く知っていただく必要がある。また、取組に対する意見を幅広く頂くことで、地域からの本校に対するニーズを把握しながら、地域との協働にチャレンジし続ける必要がある。</p>
評価結果の分析	短期(本年度)経営目標	成果	<p>①事業所説明会や研修としての事業所見学がコロナ禍で行えない中で、進路だよりの発行回数を増やし、進路情報の発信に積極的に取組んだ。学校評価アンケートでは「児童生徒の卒業後を見据えたキャリア教育の取組が伝わっている」という項目で87.8%の肯定的な回答があった。教職員アンケートでは、進路だよりの内容について、とても参考になったという回答が52.9%であった。保護者向けの進路だよりが教職員にも役立っていることがわかった。</p> <p>②教育課程に関する教職員へのアンケートでは、93%が肯定的な回答であった。そのうち「類型についての理解」や「教科等合わせた指導についての理解」という項目では、それぞれ92%の肯定的な回答があった。また、教科会や教務に関するクイズを5月と1月に実施し、正答率が62%から80%に上昇した。これらの結果から教育課程の理解を深めることができた。</p> <p>③単元計画の作成によりカリキュラム・マネジメントに取り組む意識を高めることができた。また、「知りたい」「伝えたい」「やってみたい」という思いを引き出す意識をもちながらICT機器を活用した授業を行うことができた。</p> <p>④学校評価アンケートにおいて「安全に配慮した児童生徒の学習の場づくり」に関する項目では肯定的な回答があった。また安全点検では、「肢体不自由のある児童生徒の安全に配慮し、安心して学ぶことができる教室づくり」に関する項目において9割前後の教室で意識して取り組まれていた。</p> <p>⑤児童会・生徒会を中心に定期的にあいさつ運動を行い、あいさつの定着に取組んだ。児童生徒と深く関わる方を中心に学校関係者アンケートを実施し、「自分なりのやり方であいさつができていく」の項目では、肯定的な意見が9割と多く、学校全体として実態に応じたあいさつの指導を充実させることができた。</p> <p>⑥オープンスクール及び広島県特別支援学校美術・工芸展についてはWebで開催した。また、こころのいずみ作品展・おりづるプールギャラリー児童生徒作品展は会場開催を行った。それぞれの利点を生かし、作品や動画、メッセージ、分身ロボット「OriHime」を使って学校と会場をオンラインで繋ぐなど、地域との交流を図ることができた。</p> <p>⑦SDGs未来都市東広島推進パートナーに登録し、現在校内で行っている活動をSDGsの視点で捉え直し、活動をHPに掲載し発信することで地域を巻き込んだ協働学習を進めた。教職員アンケートの結果より肯定的な評価が86%であり、地域を巻き込んだ協働学習を推進することができた。</p> <p>⑧校内ネットワークを使用した業務改善について検討し、西条特別支援学校文書箱の活用に向けての準備を行うことができた。また、職員一人一人の「私の働き方改革」についてアンケートを行い、目標達成に向けた環境設定の取組を検討することができた。</p> <p>⑨「働き方改革」の視点をもって、会議や研修の日程調整を行った。教職員へのアンケートの結果、多くの職員が施錠時刻までに退校することができていた。</p>

	課題	<p>①教職員アンケートによると、図書室の進路コーナーを約80%知っているにもかかわらず、実際に利用したのは全体の15%にとどまった。また、夏季休業中の研修については、約20%が実施できなかったと回答した。それぞれ、内容の充実や周知方法に課題があった。</p> <p>②本校の教育課程の理解は確実に深まっているが、まだ20%の人は理解できていない。教職員アンケートによると、本校の教育課程は「難しい」という意見もあり、引き続き教育課程の理解を深める取り組みが必要である。</p> <p>③「伝えたい」の項目では、肯定的評価の内訳が「できた(31%)」「少しできた(57%)」であり、「できた」の回答割合が最も低くなっている。</p> <p>④安全点検の項目「棚などの角には危険防止のためのクッション等の配慮がされているか。」は約半数、「物は腰より低い位置に保管すること」の項目では、昨年度より20%増の60%の教室で取り組まれているが全教室とはなっていない。</p> <p>各種の避難訓練を通して、肢体不自由の有る児童生徒の避難までの対応に課題があった。</p> <p>⑤学校関係者アンケートの「自ら進んであいさつができています」の項目の肯定的な評価は6割と低かった。あいさつに関わる気づきには、「あいさつをされたら応えることができるが、自ら進んであいさつができる児童生徒が少ない」という意見も多く聞かれた。実態に応じたあいさつはできているが、それを自ら行うことができる取組が必要である。</p> <p>⑥アンケート項目の「どこで(オープンスクール・展示)を知ったか」について、「学校のホームページ他」の割合が少ない傾向にあり、展示についてはテレビや新聞等のマスメディアを通して知ったとの回答が多かった。情報発信の方法については、ホームページ掲載の他、閲覧数増加に向けた工夫など、多様に考えていく必要がある。</p> <p>⑦新たな地域との協働学習の計画、実施までには至らなかった。また、プロジェクトメンバー中心の取組で終わっており、学校全体での取組にしていく必要がある。</p> <p>⑧職員一人一人の目標達成に向けた業務改善について、検討は行ったが十分には実施できていない。実施可能な内容から行う必要がある。</p> <p>⑨やむを得ず、同じ日に2つの会議が重なっていることでタイトなスケジュールになってしまうこともあった。</p>
今後の改善方策		<p>①今後は、自立と社会参加を見据えたキャリア教育の視点で、進路だよりの内容の充実・児童生徒が使いやすい進路コーナーの工夫と教職員への啓発・職員研修の実施、周知方法の改善を図っていく。</p> <p>②来年度の新しい教育課程について、全教員が理解した上で実施できるように教科会等で研修を行う。また誰が見ても分かる教育課程を目指し、様式等を整理していく。</p> <p>③来年度の研究は単元計画の作成やICT機器の活用等を通して、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う。</p> <p>④肢体不自由のある児童生徒の安全に配慮し、安心して学ぶことができる教室づくりを意識し取り組んでいく。また各種避難訓練では、本校の児童生徒の実態に合わせ、実効性のあるマニュアル、訓練を計画実施していく。</p> <p>⑤児童生徒が他者との関わりの中で、自ら果たすべき役割について考え、主体的にあいさつに取組むことができる指導の充実を図っていく。</p> <p>⑥「こもだるくんだより」やHPの特設ページ、ブログの更なる活用とマスメディアへの情報提供を通じて、交流・協働につながる情報発信に取り組んでいく。</p> <p>⑦各学部、分掌等で新たな地域との協働学習を計画、実施することで、学校全体で推進を図っていく。</p> <p>⑧実施可能な改善から行うとともに、職員一人一人が働き方改革の意識をもち、今年度の取組を生かしながら日々の業務に務めることができるようにする。</p> <p>⑨長期休暇期間中の会議日程を工夫するなど、「働き方改革」の視点をもった、会議・研修等の日程調整をする。</p>
学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策		<p>・コロナ禍でのチャレンジし続ける学校の取組については、高評価を得ることができた。今後もICTの活用等の工夫をしながら、目標達成に向けチャレンジを続けていく。</p> <p>・評価を確実に改善に繋げていくため、評価指標(評価の観点)を十分に協議し、根拠を持った評価を行う。</p>